

再評価結果（平成24年度事業継続<sup>(※1)</sup>箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名	常総・宇都宮東部連絡道路 一般国道408号 真岡～宇都宮バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	栃木県
起終点	自：栃木県真岡市下籠谷 至：栃木県宇都宮市氷室町			延長	5.2km	
事業概要 常総・宇都宮東部連絡道路は、常磐自動車道谷和原ICと東北自動車道矢板ICを結ぶ延長約100kmの地域高規格道路である。一般国道408号真岡～宇都宮バイパスは、同連絡道路の一部として整備済みの真岡バイパス、真岡北バイパスと一体となった広域交流の促進、北関東自動車道真岡ICや一般国道4号へのアクセスの強化、鬼怒川左岸地域に連担する産業団地群の産業活動の支援、2車線の現道の各所において発生している慢性的な渋滞解消を目的とした、延長約5.2kmの4車線のバイパス整備事業である。						
H15年度事業化	H3年度都市計画決定 (H12年度変更)	H15年度用地着手	H16年度工事着手			
全体事業費	154億円	事業進捗率	89%	供用済延長	-km	
計画交通量	37,400～43,900台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.4 (残事業) 29.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 19/167億円 事業費：14/162億円 維持管理費：5.2/5.2億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 571/571億円 走行時間短縮便益：552/552億円 走行経費減少便益：5/5億円 交通事故減少便益：14/14億円	基準年	平成23年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C = 26.8～32.8（交通量±10%） 事業費変動：B/C = 27.8～32.1（事業費±10%） 事業期間変動：B/C = 28.8～30.7（事業期間±1年）						
事業の効果等 ・北関東自動車道真岡ICや一般国道4号へのアクセス強化 ・鬼怒川左岸地域に連担する産業団地群の物流の利便性向上などの産業振興 ・現道の交通渋滞緩和による交通の円滑化						
関係する地方公共団体等の意見 宇都宮市、真岡市並びに芳賀工業団地及び芳賀高根沢工業団地立地企業により構成される芳賀町工業団地連絡協議会から早期整備の要望を受けている。						
事業評価監視委員会の意見 県の対応方針通り、事業継続が妥当との意見である。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 北関東自動車道が、平成20年3月に真岡ICから東北自動車道まで開通し、平成23年3月には全線供用となった。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成23年度末既投資事業費：137億円（進捗率約89%）、うち用地費 60億円（進捗率100%）						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地取得が難航し事業完了が遅れていたが、一部区間について暫定2車線での整備に変更し早期供用を図る。						
施設の構造や工法の変更等 再生骨材等を積極活用しコスト縮減に努めている。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の事業の効果、進捗状況、事業評価委員会の意見など踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。